

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400017		
法人名	社会福祉法人 西根会		
事業所名	グループホームななしぐれ		
所在地	〒028-7404 岩手県八幡平市堀切第14地割10番地7		
自己評価作成日	平成27年10月16日	評価結果市町村受理日	平成28年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&ji_evosvoQd=0391400017-00&PrEfCj=03&Ver_sj_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様がとても明るく元気です。理念である「聴きましょう・話しましょう・笑いましょう」をモットーにして、毎日楽しい会話がたくさん聞かれます。事業所も災害等に見舞われにくい安全な土地柄にあり、お天気の優れない日でも事業所の中はいつも晴天のようです。夏祭りや避難訓練を通して具体的に地域の方々と関わりが持てるようになってきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は全員、西根・松尾地区を生活エリアとして来た方々で、これまでも見なれていた裏岩手の雄姿が、ホームから眺望でき、住みなれた場と言うにふさわしく、また管理者自身も地元出身ということあり、更に地域に密着したホームを目指し、職員と共に努力している。その成果が、地域との諸行事として花壇づくりや防災行事に対する地域からの協力等々、具体的にあらわれている。また、日常的な外出、そして、利用者と職員が一緒になってのホーム内の清掃、会話と笑いが絶えない非常に明るい雰囲気が充満している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	余暇活動等を通じて、利用者と職員で聴き、話し、笑い、その時に得た情報を共有している。	ホーム開設当時、全職員で話し合って打ち出した理念を継承している。玄関、ホールに掲示するとともに、3ヶ月ごとの定期職員会議で、折にふれて吟味しながら共有し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校行事や地区の祭りなどに出かけている。夏祭りをPRし地域の方々にも参加して頂き交流している。	隣接する北部デイサービス、小規模多機能の「陽だまりの家平館」と共に法人として、山崎自治会に入っており、地域の花壇づくり等地域活動にも参加している。また、デイサービスの事務所は、地域合同災害援助協力会の事務局も担当している。また、ホーム祭りには地域住民も招き、100名ほどの人達が訪れた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関の見えやすい場所に「認知症サポーター」の掲示をしている。運営推進会議や避難訓練などを通じて活かしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催して出席者からは意見・助言をいただいている。法人に対する意見や事業所の体制などにも意見をいただいている。	同一法人の小規模多機能「陽だまりの家平館」と共同の運営推進会議で、地域密着型のあり方について、幅広い観点から議論している。例えば、事故発生の場合、家族への対応のあり方や、食事の提供方法などへの質疑、山崎自治会の行事予定などについて話し合っている。会議は、ホームの取り組みに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が運営推進会議や入所判定会議の構成員になっているので情報提供をいただいたり状況を報告する機会が多い。	八幡平市の場合、法人そのものが、行政と密接な関係があり、市の担当者とは事務的な手続きをはじめ、諸情報の提供など、幅広い連携がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠は必要な状況はない。身体拘束については、資料を配布し学習している。	「身体拘束ゼロを目指して～岩手県～」を全職員に配布し、また、テレビや報道記事等を参考に、身体拘束をしないケアに努めることを共有し、ケアにあたっている。現在、ベッドの片側に柵を設置している利用者があるが、利用者・家族の了承を得た上、夜間の寝返り時の落下を防ぐために付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事など法人から資料が配布され職員が目を通している。職員同士で声を掛け合い、健康状態を確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は学ぶ機会もあったが定期的には行われていない。現在制度利用が必要な方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約や改定等についてはも、重ねて説明を行い同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に毎月来所して頂いた際に生活の様子をお知らせして、意見・要望等を伺っている。利用者・家族に困ったことがあった場合の為、相談窓口を設けている。	運営に関しての利用者、家族の意見は多くは無いが、可能なものは反映させている。最近、個人的な要望ではあるが、機能的な面から「外を歩かせてほしい」とか、通院支援についての希望があり、叶えられるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議の中で意見・提案など発言の機会を設けて働く意欲の向上につなげている。普段の会話の中でも利用者のこと、業務のことなどの話しに耳を傾けている。	職員の日常的な会話の中で出ていることや、3ヶ月ごとの職員会議で出たことなどを踏まえながら、これも可能な限り反映させている。家族向けの「ななしぐれ通信」は、従来は担当職員の手書きの手紙と写真中心のものであったが、あまりにもパターン化したため、写真に利用者のコメントをつけたものにしており、職員の発案である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員への採用試験等を行い扉を開いている。給与の見直しや事業所の条件に合わせて勤務時間が設けられている。年一回施設長との面接があり要望できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員配置を考慮しながら職員の技量に応じて可能な限り研修会に参加するよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員研修会・スポーツ交流会に参加したり交換研修を行いその施設の良い点・参考になる点を学びとっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人と面接したり担当のケアマネから情報収集をしている。又、本人との会話の中で不安・要望などを傾聴し安心していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談からサービスの導入まで定期的に本人の状況を確認し家族の不安・要望など家族の立場になって傾聴している。又、家族にはサービス開始前に施設内を見学していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望等をもとにその時点で何が必要か見極め必要な情報の提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在持っている機能を維持できるように、できることを探し行って頂き、できない部分はお手伝いする。楽しい時間を共有し共同の生活に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活について現状を共有しご本人を主体として考え、より良い生活ができるように話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地の催しものやドライブなどで回想できる場に出かけられるように努めている。	親戚や兄弟以外の馴染みの人として、元近隣の住民が近くに来たからと寄ってくれることがたまにあり、ホームとしては、温かく迎えている。ホームから馴染みの場や人を求めて出かけるのは、利用者の元生活エリアの祭りなどが主体となっている。例えば、平館の地藏尊、八幡神社、大更の八幡神社、田頭の稲荷神社、安代の不動滝などである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は利用者全員が共用スペースで過ごす事が多い。色々な場面でそれぞれが良い関係をきずけるように、関わり作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の生活の場を確保できるように相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の気持ちを受け止められるように、一人ひとりの話や気持ちに心を向けている。	利用者は直接、自分の気持ちを話してくれることが多い。言葉にならない利用者でも表情によって、判断できることが多い。利用者の思いや意向は連絡ノートに記録し、回覧している。全職員が、回覧・押印により共有し、ケアに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回利用相談時から本人と家族やケアマネなどから情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を共にし様子を確認することで把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケアプラン以外にもその都度本人の状態や家族の要望に合わせて追加・削除している。	3ヶ月に1回、1人ひとりの利用者のケアプランを話し合い、それに家族の意見も取り入れながら計画作成や見直しをしケアにあたっているが、各々の利用者の担当職員は日常の中で、変化等気付いた場合、プラン以外でも対応できるよう注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は毎日記録され全職員で情報の共有をしている。ケアプランの実施状況も生活記録と一緒に取り入れプランの見なおしに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々ニーズを基本に受け止め柔軟に対応している。受診支援や面会に来る家族の送迎を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々や子供の慰問、夏祭りや避難訓練などを通して地域の方々とのかわりを楽しむ事ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれかかりつけ医がある。受診時には、最近の健康状態などを医療機関と家族に情報提供している。必要に応じて他病院の受診についても相談している。	ほとんどの利用者は、入居前からのかかりつけ医である。受診支援は、家族に依ることになっている。ホームとしては、利用者の健康にかかわる情報をかかりつけ医に提供するとともに、かかりつけ医からの情報も受けている。特定の利用者ではあるが、眼科の訪問診療を受けており、臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されて、利用者や職員の健康相談に乗っている。状態に変化があった場合には家族と話し合い検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は不安・ストレスを軽減するため面会の機会を多くしている。本人が安心して治療を受けられるように病院にも必要な情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについてはマニュアルを作成している。段階を踏みながら家族の意向を確認しながら検討していきたい。	現在、「ターミナルケアマニュアル」を作成し、職員間で勉強会を行っている段階で、具体的に受け入れる状況になったとは言えない現状である。グループホームのあり方として、今後、更に勉強会を深め、対応を決めていきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して学習できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備蓄は行っている。避難訓練を定期的に行い災害援助協力が会があり地域の皆様にも避難訓練に参加して頂いている。	年2回の避難訓練を実施している。この9月には、夜1回(18時頃)に、隣接の陽だまりの家平館(小規模多機能)と一緒に、地域の災害援助協力会からは10名以上の参加者があり成果があった。「冬場に非常口の屋根の落雪が避難の妨げになる。」「早速屋根の雪を撤去。」「屋内の様子を知ることが必要。」などの意見が反省点として出されている。当日の様子は写真により記録している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉のかけ方は職員同士で指摘しあい改めている。利用者どうしの関係にも配慮している。	利用者に対する職員の言葉遣いに特に注意している。非常に明るい雰囲気にあるからこそ年長者である利用者にぞんざいな言葉になったり、否定的な言葉になったりしない様に、職員間で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で本人の希望や思いを聞いている。介護者側の考えを押し付けないように自己決定できるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けしながらも一人ひとりの気分や状態に合わせて活動を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望で衣類や用品を準備して頂き、必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注の食事を提供しているがメニューを紹介したり季節感を味わって頂いている。畑の野菜や家族の差し入れでおやつ等を行っている。	外注の食事については、県外移送から同敷地内施設での調理に切り替えたことにより、食べ残しも無くなり、好評を得ている。更に、家族提供の野菜などで、事業所でおやつを提供しているほか、利用者のリクエストや、外出先での食事など、利用者の意向に沿うように配慮している。また、食器洗いや下膳、テーブルの清掃など、利用者の協力を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎食確認し少ない人には声かけをしている。歯や飲み込みの状態により形態を変えたり体調や体重の増減を考慮しながら提供している。又、その人に合った食器を工夫し楽しく食事できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの行い方を見ながら足りない方には必要な部分をお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しその人にあつた時間にトイレ誘導をしている。おむつを着用している方も全員トイレを使用して頂いている。	利用者の排泄パターンに合わせてさりげない声かけ、誘導に努めている。全利用者がトイレでの排泄が出来るように支援しており、全体的に、状態が思わしくなくなる傾向は見られない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りすぎないように運動・水分補給で自然排便につながるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	ほぼ定期入浴となつてはいるが入浴の前に体調確認を行い希望やタイミングに合わせた支援を行っている。	入浴は1日3名、午後の時間帯に行い、それぞれ平均週2回の入浴となっている。朝と入浴直前の体調確認をして、その日の入浴の可否を決定する。現在では、入浴を拒む利用者はいない。入浴については、楽しい入浴にするため、利用者の意に沿い、弾力的な対応を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後・入浴後など好きなところで自由に過ごして頂いている。生活リズムが崩れないように日中は活動を進めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服残量チェックや副作用・禁忌等に注意し職員がわかるようにしている。服薬により変化が見られたときは状況により家族や病院に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課の中に役割を持っていただいている。作品づくりや行事等で必要なものを作成したりできる能力を生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で日光浴や畑の作業、ドライブ、買い物、外食、病院受診などを支援している。	広い敷地の中を散歩し、気分転換することや、身体機能の維持等に努めることを日常的なこととして支援している。遠出については、前述した様に、地域の祭りなどを中心に出かけることが多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にお預かりしている。希望がある場合は使用いただけることを説明して了解をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用の希望があればいつでも可能である。家族宛てに手書きの年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面にその季節に合った作品を作り飾りつけを行っている。た明るさや温度などは利用者の体感を伺いながら調整している。	共用空間づくりでは、利用者と職員と一緒に清掃することで、自分たちの住家、生活の場を大切に、住み良くしようと心がけている。毎日、2~3人の利用者は、その日の体調を見ながら、廊下・ホール・玄関や、手すりの拭き掃除をしている。また壁面には、行事関係などの写真・利用者の作品を飾りつけ、心を和ませている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ・食堂の椅子・廊下の小上がりなど思い思いに自由に使われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ使い慣れたもの、思い出のあるものを配置している。部屋が固定されているので自分の居場所を実感している。	居室は、ベッド、クローゼット、手洗いが設置されているほか、パネルヒーターで温度管理がなされ、快適な生活環境となっている。更に、家族の写真や、ハンガースタンド、衣装ボックスなど、それぞれの意向に沿い、馴染みのものが持ち込まれ、個性を大切にし、落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所には昇降式の調理台が設置してあり利用者の体に合わせ作業しやすくなっている。自室の表札・トイレや非常口はわかりやすく表示されている。		